宮鍼会報 ACUPUNCTURE

2017.3.31. NO.004

- 会長あいさつ「リピート率アップを目指そう」
- 東北鍼灸学会 in 福島
- 全国大会 in 福岡
- WFAS Tokyo/Tsukuba 2016
- ひとめぼれマラソン
- スキルアップ研修
- 青年部研修会
- 新年会 / 賀川秀眞先生受賞祝賀会
- 東洋医学コンシェルジュ

公益社団法人　宮城県鍼灸師会

会長コラム「リピート率アップを目指そう！」

新体制から約 1 年が経とうとしていますが、ここまで手探りながら何とかやってこられたのも、樋口前会長のサポートをはじめ、会員の皆様のご支援の賜物と、心より感謝申し上げます。

さて、前回の会報でリピート率について触れましたが、今回もう少し踏み込んでみたいと思います。

よく、繰り返し来てくれる人のことを「リピーター」と呼びますが、私たちの仕事においてリピーターとして来院してくれる割合を患者リピート率と言います。これを「新患リピート率」と「既存患者リピート率」として私なりに分けてみました。

新規の患者さんを呼び込む努力はとても大切ですが、そこには新しい技術が必要であったり、その技術を習得するための時間やお金もかかります。一方、一度来院した人をリピーターとして通ってもらうことは、新規の患者さんを獲得するよりも遥かに少ない労力、時間、経費で済むと考えています。そこに‘豊か’になるための方向性が見えてくるのではないでしょうか。昨年、当院で約 10 か月に亘って新患リピート率調査を実施してみました。新患として一度来院した患者さんが、その後少なくとも 1 ヶ月に平均 1 回以上、定期的に継続してくれた人を対象に調査したところ、新患リピート率は 15%でした。もしかしてリピーターとならなかった８５％の人達の中には、ちょっとした工夫でリピーターになったであろうことを思うと、みすみす患者さんを逃がしていたことになります。１５％に留まった一番の原因は、やはり患者さんへの働きかけが少なかったと分析しました。病態と現在の状態を説明し、症状が落ち着いて見えても、メンテナンスが必要である根拠を伝えていれば、この数字はもっと高かったと想像しています。

このリピート率をもう少し掘り下げようと、昨年の青年部研修会の中で、新患・既存患者両方のリピート率について話し合いをしました。リピート率アップの方策としては、上記の「病態と現在の状態を説明」以外にも、「次の予約をしっかり決める」「患者さんの話を親身になって聴く」「プライベートのことも話してもらえるような信頼関係を持つ」「保険（療養費）を使う」「鍼灸情報サイトに登録する」等々の意見が出てきました。実はリピート率を上げる工夫は案外身近に落ちていることが分かります。さらに私見を加えれば、自分がリピーターとして通っている病院や歯科医院など、もっと身近なところでは、飲食店やスーパーなどを考えた時、自分にとって何が満足や喜び、安心感が得られているのか。そこの院長、店主、従業員の振る舞い、人間性など、何が自分を引き付けているかを考えてみると、参考になることが沢山あります。

そこで、私から皆さんに一つ提案として、ご自分で考えられるリピート率アップの方法を 5 つ書き出し、その中で今実行できることを先ず、2 つやってみてはいかがでしょうか？　すぐに結果は出なくても、繰り返すことにより徐々にではあるけれど、きっと成果は上がるはずです。

平成 29 年度の方針としては、患者さんのリピート率アップを考慮しながら、宮鍼会のスローガンである「経済的に豊か、心も豊かになる」に立脚した事業に力を入れたいと思っています。具体的には青年部活動および、進行しつつある高齢者対策のための新規事業を中心に、これまで展開してきた事業をさらに充実できるよう役員一同、気持ちを一つにして取り組んで参ります。引き続きご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

会長　稲井 一吉

東北鍼灸学会 in 福島

平成28年9月18・19日、第50回東北鍼灸学会福島大会が「ビッグパレットふくしま」で開催されました。今回のテーマ「もっと熱くなれよ！スポーツ鍼灸の実際」に、多くの先生が講演され、多くの実演もあり有意義な大会でした。

第1日目、溝口哲哉先生の「ダイナミックロトセラピー」では、動的鍼灸の臨床スタイルを初めて耳にし、興味を持ちました。体の連鎖機能を調整することでバランスのとれた治療が本治法になると、確信を持っての実技講演でした。

第2日目、小宮ひろみ先生の「女性がスポーツとうまく付き合うために」の講演では、スポーツにおいて「性差」が意識されてきているが、女性アスリートにとって重要な課題といわれているものに対して十分に対応されているか？の提起をされていました。そして、鍼灸の良さを発信することの重さを学びました。

一方、三潴先生の「日本鍼灸のこれからを考える」を聞き、鍼灸は鍼灸師のためではなく、国民のためにあり、伝統医学の宝である鍼灸の真価を十分に発言してほしいと結んでおられました。

他にも沢山の講演、発表がありましたが、そのすべてを拝聴することができなかったことが心残りでした。

最後に、今回お世話をしてくださった、福島県鍼灸師会の会員の先生方の暖かな「おもてなし」の心遣いに、楽しく、充実した二日間でした。

千葉　時江

髙橋はるか先生によるポスター発表

懇親会、盛り上がりました！

全国大会 in 福岡

私は昨年の 10 月 10 日に福岡県で開催された、日鍼会主催の全国大会の一般講演で、「鍼灸治療による胸郭出口症候群の症状の軽快」という題名で症例発表を行いました。

発表当日はとても緊張しましたが、何とか発表をすることが出来ました。

遡ること 2 年前の平成 27 年の 9 月に行われた、鍼灸臨床研修に参加させていただき、そこで色々な経験をさせていただいたのが、症例発表のきっかけでした。研修内容は、問診・診察ハンドブックに載っている基本をさらに深く学ぶというものでした。そこで、経験した、頚や上肢、肩や腰、膝に至るまでの検査を覚え、そして、2 年前に来院した患者の治療を行いました。

その患者は、病院で、メニエール病と診断されましたが、薬だけでは治らないと思い、当治療院に訪れたようです。その後治療を行い、治療方法が良かったのか、経過が良好だったので、その症例を発表することに致しました。

研修会にも来ていた稲井先生や東京にいらっしゃる小池先生など、色々な方々の手助けを受け、発表までこぎつける事が出来ました。

まだ、治療院を開業して 3 年という事もあり、経験が浅かったので、ご迷惑もおかけしましたが、無事に福岡で発表をすることが出来たので良かったです。

普段はカルテをそこまで記入したり、検査をしたり、していなかったので、本とにらめっこしながら検査をしたのを覚えています。日頃からきちんと検査し、診断することが大切なのだと実感致しました。

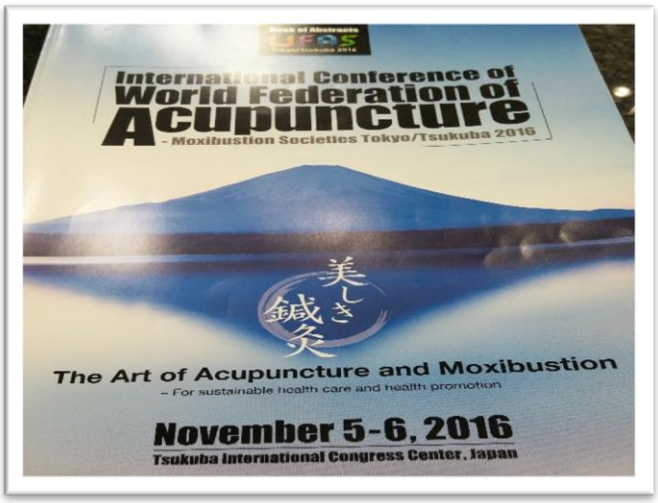
発表のための症例報告の書き方や、パワーポイントを使った資料作りなど、色々な事が勉強になり、とても良い経験になりました。

発表が終わったあとは、爽快感よりも安堵したのを覚えています。発表までが、かなりのストレスだったので、今後はご遠慮したいと思います。

ですが、今現在膝の治療で、来院されている患者の治療が、とても経過が良いので、機会があれば、発表しても良いかとも思っています。と言いますと、発表させられてしまいますので、気持ちの中だけにしたいと思います。

三浦　秀隆

WFAS 世界鍼灸学会連合会学術大会 東京/つくば 2016



2016 年 11 月 5 日(土)、6 日(日)に、つくば国際会議場にて開催された「世界鍼灸学会連合会学術大会 東京／つくば 2016」通称 WFAS に参加しましたので報告します。大会発表によると、23 年ぶりに日本で開催され、「美しき鍼灸―持続可能なヘルスケアと養生」と題した本大会は、31 か国 1,727 名の参加があったとのことです。

本大会では、英語・中国語・日本語が公用語として使われており、会場や抄録は英語での標記が多く、また多くの外国の方々がおり、国内の学会との違いを実感しました。基調講演などでは 3 か国語の同時通訳があり、鍼灸実技セッションやランチョン実技セッションでは通訳を介しながら進められたため、理解に苦しむことはありませんでした。

鍼灸実技では、国内の様々な流派を代表される先生方が発表され、「日本の鍼灸」を順次見ることができました。口頭発表は抄録・発表から質疑応答まで全て英語で行われ、他の講演等に比べると難易度が高めでしたが、様々な視点からの発表がありました。ポスターセッションも数多くあり、あれも聞きたい、こちらも見てみたいという状況で、自分のスケジュールを立て移動するのが大変でした。

私が本大会で特に興味を持って聴講したものの一部を紹介します。

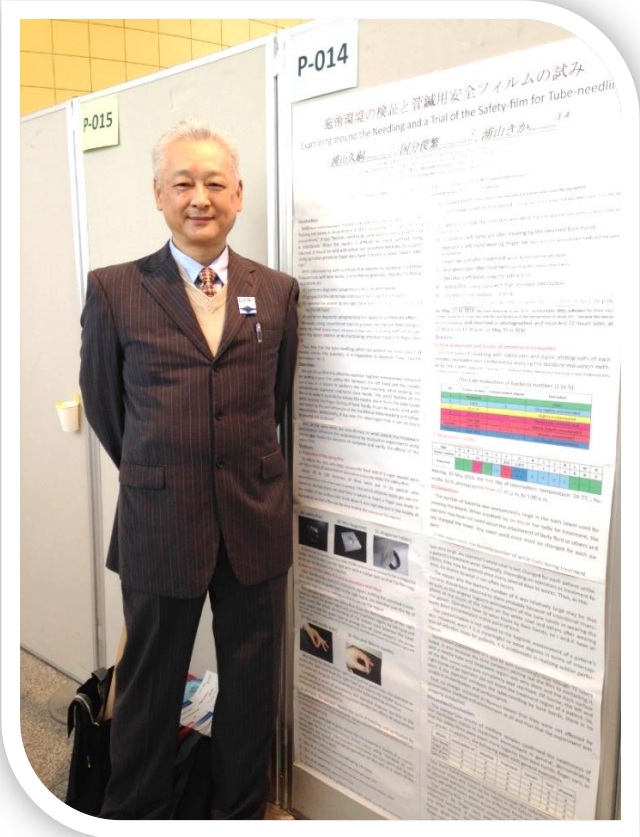
① ポリモーダル受容器が円皮鍼や皮内鍼のような浅い鍼刺激や日本の鍼灸に多い微細な鍼刺激でも、また擦過するだけでも反応することが証明され、これまでの研究から日本の鍼治療の臨床効果が証明された。日本鍼灸のもう一つの特徴でもある心地よさと C 繊維の関与については明らかになっているものの、臨床効果との関連性はまだ十分な証明がされていないので、今後も注目したい。

② 日本の昔の研究がベースになっているモクサアフリカの研究により、結核・エイズの治療に灸治療の効果が認められ、免疫学的理論が証明されている。今後のさらなる研究結果が待たれると共に、灸治療の可能性の広がりを感じた。

髙橋 はるか

浦山久嗣先生 ポスター発表

浦山久嗣先生らによるポスター発表「施術環境の検証と鍼管用安全フィルムの試み」では、押手と鍼体（および鍼管）の間に極薄の安全フィルムを介在させる鍼管術を提唱し、日本の伝統的鍼灸施術を衛生的に行えるクリーン・ニードル・テクニックとして、安全フィルムの使用が素手および指サックやスキングローブに比べ最も適していると証明しました。
（浦山先生はこの他に、オーラル発表「有林『福田方』の成立と構成について」でも共同発表をされました。）



ひとめぼれマラソン　2016.11.3. 美里町

初回から休むことなく 20 回目の参加です。
温かい室内で鍼に特化した治療、
今野先生の素早く綺麗なテーピング、おにぎりと
トン汁ももれなく付いてきて楽しくためになる
ところです。　　賀川 秀眞

選手のケアをする賀川秀眞先生

お天気に恵まれ、好スタート！

スキルアップ研修

稲井先生による実技

2016. 12. 4.　情報・産業プラザ特別会議室
・「在宅ケアと往診治療の基本について」高橋博 先生
・「ムチ打ち損傷の鍼灸臨床について」郡司貞雄 先生

2017. 2. 5.　エルパーク仙台創作アトリエ
・「療養費適正化講習会」小林厳 先生
・「『頭痛』の鑑別と鍼灸治療の実際」稲井一吉 先生

青年部研修会 2016.11.26「夕焼け麦酒園」

男鹿秀一先生による症例報告『接骨院、整形外科から鍼灸と回ってきた腰痛患者』の発表がありました。

先生曰く「この症例は、私にとっては重度の患者で、
しかもご近所なので絶対失敗出来ない！という思いで緊張しました。
それでも回数を重ねるうちに何とか治療効果を出すことができ、
改めて鍼灸の良さ、経絡治療の良さを実感できました」とのことでした。

新年会＆賀川秀眞先生知事表彰受賞祝賀会　2017.1.7「けやきカフェ」

毎年恒例の新年会が開催され、併せて賀川秀眞先生の『知事表彰』受賞祝賀会が執り行われ、賀川先生のお人柄から終始笑いが耐えない祝宴でした。今回の企画は若い先生方の計画により実施され、今までと様変わりし、参加された先生方は楽しい時間を過させて頂いたと思います。今後の宮鍼会が楽しみです。　今野　正弘

賀川秀眞先生インタビュー

Q1 受賞の感想をお聞かせください

人や組織に支えられてきたことと健康に感謝。公益社団法人となって社会的な評価も高まったこともあるので、どしどし後に続く人が出ることを期待します。

Q2 これまでを振り返って

与えられたことをこなすのが精いっぱいでしたが、嫌だとか負担だと思ったことはなく楽しくやらせてもらいました。

Q3 今後の展開・抱負などお聞かせください

医療としての鍼灸が患者のためにどうあるべきか、どうすべきか、そのための制度の解釈、運用の適正化を考えて行きたい。

Q4 後進へのメッセージをお願いします

自覚と誇りを持ち患者の負託に応えられる鍼灸を確立してほしい。

会員リレーコラム　東洋医学コンシェルジュ vol.2

～冷え取りにおすすめ『酢しょうが』～

日中は、ときおり春めいた陽気も感じられるようになってきましたが、まだまだ朝晩冷えることも多いこの時季。

冷えてつらいとおっしゃる方への対策として、衣食住の色々な場面において対策があげられますが、今回は食の面から、手軽に作ることができてお勧めなものとして『酢しょうが』を紹介いたします。

生姜は隔物灸でも使われるので、その働きはご存じの方も多いかと思いますが、食材としても、ジンゲロールという成分は、新陳代謝を活発にし、免疫力を高める働きがあるとされています。

それに加え、内臓脂肪の減少や疲労回復などの作用があるとされているお酢を合わせて作ります。

酢しょうが、そのものだけでなく、生姜の成分が溶け出したお酢もドレッシングとして使ったり、炭酸水で割ると、飲み物としても、おいしくいただけます。ぜひご活用下さいませ！

～作り方～

①生姜を洗い、水気をふき取ったら、汚れている個所や傷ついている部分を包丁で取る。
②生姜の有効成分は、皮と実の間に多く含まれているので、皮つきのままスライスする。
③ガラスやプラスチックなど金属以外の保存容器に②で用意した生姜を入れる。
④生姜が浸るくらいの量のお酢（穀物酢・米酢など）を入れる。
⑤冷蔵庫で１日漬けて完成。

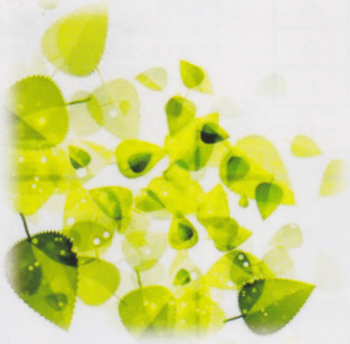
生姜が常にお酢に浸っている状態を保つと冷蔵庫で１か月は保存が可能です。

筆者：澤口 史絵

（※コピーして待合室に置くなど、患者様への啓蒙リーフレットとしてもご活用ください。）

平成 29 年度 上半期行事予定

5 月 14 日　仙台国際ハーフマラソン大会　救護ボランティア / 平成 29 年度定時総会
5 月 24 日　子育て支援　親子ふれあい教室
6 月 18 日　スキルアップ研修
7 月 2 日　老人ホーム慰問
7 月 9 日　青年部研修　治療院見学
9 月 2・3 日　東北鍼灸学会　山形大会
9 月 10 日　県民公開講座　講師：福島県立医科大学　小宮ひろみ先生



編集：西羅 美流 / 澤口 史絵